

製品名: VN2R1P ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19816**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	83kDa

抗原情報

遺伝子名	CASRL1
別名	
遺伝子 ID	344760.0
SwissProt ID	Q8NGV9
免疫原	抗血清はヒト CASRL1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 400-449

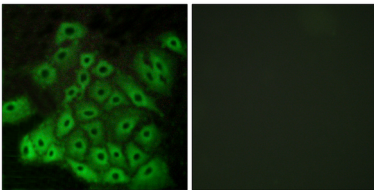
背景

CARL-1 モノクローナル抗体は、細胞外領域で TNF と高い同一性を示す II 型膜貫通型 TNF スーパーファミリーのメンバーであるヒト TWEAK と反応します。TWEAK 転写産物は多くの成人および胎児組織で広く発現していますが、モノクローナル抗体によるヒト末梢

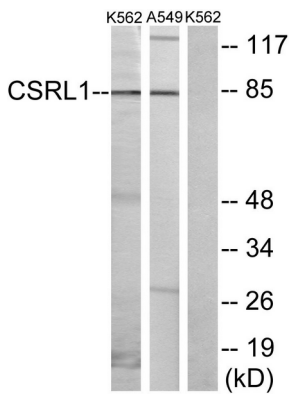
血単核細胞の染色はより限定されたパターンを示します。新鮮に単離された PBMCs はその表面に検出可能なレベルの TWEAK を発現していませんが、IFN- γ 刺激を受けた血液単球は TWEAK の表面発現を急速に上方制御します。TWEAK は膜結合型および分泌型として発現します。TWEAK とそのカウンター受容体との相互作用は、IL-8 の分泌、NF- κ B の活性化、内皮細胞の増殖、および多くのヒト細胞株におけるアポトーシスを促進します。当初、DR3 が TWEAK の受容体であると考えられていましたが、その後の研究で、TWEAK は DR3 とは異なる受容体を介してアポトーシスを誘導する可能性があることが示されました。TWEAK は TNF と重複するシグナル伝達機能を有しますが、アポトーシス誘導効果は一般的に TNF より低いため、「TNF 様弱アポトーシス誘導因子」と呼ばれています。サンドイッチ ELISA によるヒト TWEAK の検出には、捕捉用精製 CARL-2 と検出用ビオチン化 CARL-1 の組み合わせが推奨されます。

研究分野

画像データ



CSRL1 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



CSRL1 抗体を用いた K562 細胞および A549 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。